

## 疾病に関する研究

### (39年度) ニジマスの潰瘍病について

家 坂 剛 正

#### 1. 目 的

7月中旬より県内各地の養鱈池に発生し、當場に於いても下旬より見られるようになった。本病は魚令に関係なく発生し罹病魚の殆んどが背鰭基部付近の軀幹部に潰瘍性患部が見られ内臓、その他の部分は肉眼的には異状が認められない。病状の進行したものは殆んど摂餌せず水面近くを浮游しており、大半は斃死する。それで保科教授(東水大)に診断を依頼したところが、潰瘍病ではないかと推定され、近くの一業者より病魚を搬入して次のような治療試験を実施した。

#### 2. 試験の方法

8月25日～9月9日 16日間

- |        |       |   |
|--------|-------|---|
| 1 放 養  | 8月21日 | 約4 m <sup>2</sup> の池面積に26.3 kg<br>2.460尾/区 平均体重10.7 g |
| 2 設定区  | A区    | オーロファツク2A(オーレオマイジン8 mg / g 含む)を<br>餌料に対して2%投与         |
|        | B区    | フランC(フラゾリドン10%含む)を餌料に対して0.2%<br>投与                    |
|        | 対照区   | 日配5ペレット使用   |
| 3 基本餌料 |       | オリエンタル飼用粉末にフィードオイル5%添加                                |
| 4 使用水  |       | 井戸水(平均水温21.6°C)                                       |

#### 3. 結果と考察

死魚数は左表に示す通り有意の差はなく、対照区の斃死が少かつた為に薬剤の効果は明らかでなかつた。死魚数及び取上時に於ける患部のある個体数から考えて、試験期間中に罹病魚の

死 魚 表

月 日	A 区	B 区	対 照
8.25	10	13	13
26	16	5	10
27	9	1	5
28	12	4	5
29	5	3	2
30	14	0	4
31	15	3	5
9. 1	12	1	2
2	6	事故326	3
3	6	0	2
4	4	3	0
5	3	3	1
6	2	3	1
7	2	0	1
8	2	1	1
9	1	0	2
計	119	366	57

多くが治癒したように思われる。治癒したとすれば、それは発病池が谷水を使用し、水量が少い上に浮泥が多いという悪条件であつたに比し移動した試験池が清澄で且つ豊富な水量であつたこと、即ち、環境条件を良くしたことが治癒へ向わしめたのではないかと考えられる。

疾 病

( 3 9 4

1.

授

2.

体

供

c

体

凝

る

期

26/6

1

12/7

2

28/7

1

14/8

2

29/8

1